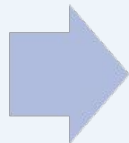


## ＜早めに治療を開始したほうがよい場合＞

血管腫の部位や大きさにより、からだの機能や発達に悪い影響を及ぼすことがあります。次の1つ以上あてはまる場合には、早めに医療機関を受診したほうがよいでしょう。



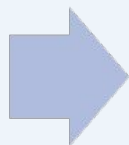
病変が耳に近い場合



耳をふさいだり、  
耳の変形をきたす可能性



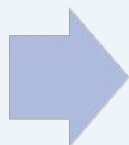
病変が目に近い場合



視力に悪影響を及ぼす可能性

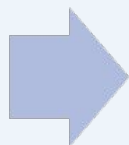


病変が鼻や口、  
首に近い場合



呼吸機能・ほ乳に  
悪影響を及ぼす可能性

病変が大きい、  
出血やただれやすいなど



「あと」が残りやすい可能性

※ 上記に当てはまる項目がなくても気になる症状があったり、  
急激に症状が変化する場合には、かかりつけ医に相談しましょう

### ◆注意◆

- ✓ 乳児血管腫の治療に使用する飲み薬(プロプラノロール)は、気管支喘息や  
重度の不整脈(徐脈や房室ブロックなど)のある人には使用できません!
- ✓ 2~3歳をすぎて病変が明らかに退縮期にはいつているお子さんの場合には、  
増殖期のような治療効果は期待できません。

### 治療の効果について

治療の目的は、血管腫が完全に消えることではありません。

血管腫が増大するのを抑えて、小さくなるのを早めること  
です。それぞれのお子さんの条件(大きさ、部位、治療開始のタイミングなど)により、改善のしかたには個人差があります。